

「海産養殖魚の飼育管理の手引き ～魚病の予防と被害軽減のために～」の作成と普及

魚類養殖に不可欠な魚病の予防

三重県では、波の穏やかな熊野灘の内湾を中心にマダイやブリ、シマアジ、マハタ、クロマグロなどの海産魚の養殖が盛んに行われています(図1)。

養殖魚も人間や家畜と同様に病気(魚病)にかかることがあります。飼育している魚が病気で死ぬと売り上げが減少するほか、治療にも経費がかかるため、大規模な魚病の発生は養殖経営を圧迫する場合があります。したがって、魚病を予防することは、安定した魚類養殖業を営む上で不可欠であるといえます。



図1. 熊野灘の内湾に浮かぶ養殖筏

魚病を予防する上で大切な飼育管理

魚病を予防するためには、病原体の増殖を防ぐとともに、病気に対する抵抗力を養うことが大切です。そのためには、飼育環境を良好に保ち、適切な飼育管理を行う必要があります。

そこで水産研究所では、これまで行ってきた魚病対策等の研究成果と既存の文献データをとりまとめ、三重県海水養魚協議会とともに「海産養殖魚の飼育管理の手引き ～魚病の予防と被害軽減のために～」を作成しました。

手引きの内容

本手引きでは、魚病を予防するために海産魚の飼育管理で注意すべき点と、魚病が発生した場合に被害を最小限に抑えるための適切な対処について、4つのテーマ(20項目)に分けてとりまとめています(図2)。新規に魚類養殖業を始められる方にも分かりやすいように、各項目の冒頭に要点を示すとともに、その根拠となる研究データ等の知見を「解説」として記し、理解が進みやすくなりました。

目次	
1. 種苗の導入 種苗の善し悪しは養殖のスタートでありながら、ゴール(出荷)までの結果を大きく左右する重要な要素です。 ・種苗導入における注意点・・・(p 3) ・水産用ワクチンの使用・・・(p 6)	
2. 魚の健康を保つ給餌管理 魚の成長段階や季節に応じて変化する摂餌活性や消化の特性を考慮して給餌することが健康な魚を育成することにつながります。 ・餌の種類と特徴・・・(p 9) ・消化速度に影響する要因・・・(p 12) ・給餌頻度と給餌量・・・(p 14) ・添加物の使い方・・・(p 17)	
3. 飼育環境の確認 自然条件(水温、溶存酸素等)の変化に応じた飼育管理や人為的な飼育条件(飼育密度、生簀の設置条件等)の適正化は魚の健康維持に大きく寄与します。 (1)自然条件 ・水温(季節)・・・(p 19) ・溶存酸素(DO)・・・(p 24) ・塩分・・・(p 27) ・赤潮・・・(p 30) ・底質・・・(p 32) (2)人為的条件 ・飼育密度・・・(p 35) ・光(遮光)・・・(p 40) ・生簀網の配置、網替え、材質・・・(p 43) ・稚魚と越年魚の別漁場での飼育・・・(p 45)	
4. 魚病への対応 ていねいな魚の観察と魚病発生時の迅速な対応が魚病のまん延を防ぎます。 ・魚病の早期発見のための日常観察・・・(p 47) ・魚病診断の受診・・・(p 49) ・病魚の取り上げ・・・(p 50) ・絶食の有効性と適切な絶食期間・・・(p 52) ・水産用抗菌剤、駆虫剤の使用・・・(p 57)	

図2. 海産養殖魚の飼育管理の手引きの内容(目次)



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Owase Branch

〒519-3602 尾鷲市天満浦古里215-2

TEL (0597)22-1438

FAX(0597)22-1439